



1 月号

2024 No.16



SPECIAL REPORT

退院後も継続して
必要な看護を届けたい。

地域包括ケア病棟・在宅支援チーム特集

CONTENTS

- 1 Care 療養支援のおはなし
- 2 地域医療を支える新しい力
- 3 地域医療の豆知識
- 4 NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

当院では今春、訪問看護ステーションを開設する計画です。これは、医療依存度の高いまま退院する患者さんがより安心して在宅療養できるようにサポートすることが主な目的です。今回の特集では、その開設計画を中心に、患者さんの生活を支えていこうとする看護師たちの思いを紹介しました。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

退院後も継続して 必要な看護を届けたい。

地域包括ケア病棟・在宅支援チーム特集

今春、新たに訪問看護ステーションが始動。
より生活を見据えた看護に力を入れていく。

CHAPTER 01 患者さんの身近で支える という大きなやりがい。

初冬のある日、西尾市民病院の患者支援室を訪ねると、ご家族の相談に丁寧に応える看護師、高須瑠実の姿があった。高須は2023年4月にここへ配属されたばかりで、前任は地域包括ケア病棟に6年ほど、それ以前はずっと一般病棟で急性疾患の看護を担当してきた。慌ただしい急性期の現場から、比較的落ち着いた地域包括ケア病棟、そして患者支援室へと異動になってきたわけだが、自らのキャリアの変遷をどのように見ているだろうか。「急性期では治療を優先し、全身状態の管理や症状の改善に集中していました。それも勉強になったのですが、一転、地域包括ケア病棟に移り、〈私が求めていた看護はここにある〉と思いましたね。というのも、地域包括ケア病棟では患者さんが叶えたいことを第一に、皆で力を尽くしていく体制で、患者さんの思いに寄り添える手応えがありました」と振り返る。さらに今、より患者や家族に近い部署へ移り、大きなやりがいを感じている。「病棟の患者さんやご家族とじっくり話す頻度が増え、充実を感じています」と話す。

もう一人、患者支援室の看護師、内藤香利を紹介したい。高須と同じように一般病棟で長年経験を積んだ後、患者支援室に配属されて約10年。今春から開設される訪問看護ステーションの立ち上げに取り

組んでいる。今春から始まる当院の新たな挑戦について、内藤はどのように感じているだろうか。「長年、患者さんの退院調整に携わるなかで、自宅に帰りたくても帰れない事例をたくさん見てきました。例えば、患者さんとご家族の両方が自宅療養を希望されても、人工呼吸器や床ずれ処置などの医療管理をご家族が行うことは難しく、ハードルが高いんですね。もちろん事前に練習していただくのですが、それでも自信がないからと、自宅療養を諦めてしまうことがよくあります。そんなとき、へ当院で訪問看護までフォローできれば、もっと手厚く支援できるのに」と、思っていました。ですから、退院した患者さんの在宅療養を支援していけるのは本当に楽しみです、今から皆でワクワクしています」と話す。

COLUMN

●西尾市民病院の訪問看護ステーションは、2024年4月開設予定。当初は、看護師3名、リハビリテーションスタッフ1名の合計4名体制で走り出す予定である。

●まずは小さな組織から始め、ゆくゆくは人員を増やし、24時間オンラインで患者さんの急変に対応できる体制を整える計画となっている。医療依存度の高い患者さんや難病の患者さんの看護、そして看取りにも積極的に取り組んでいきたいと皆、意欲を燃やしている。



CHAPTER 02

病院と在宅療養の隙間を 看護の力で埋めていく。

二人に共通するのは、へより生活に近いところで患者さんとご家族の気持ちに寄り添って支援していきたいという強い思いである。その思いについて、高須は次のように話す。「病院の看護という、急性期にスポットが当たりがちですが、看護は急性期だけでは終わりません。実は急性期を脱した後の生活復帰までの過程で、看護師ができることはいろいろあります。病気になる前、患者さんがどのように生活し、何を楽しみにしていたか。そんなところから患者さんの人生を理解し、信頼関係を構築しながら生活の質を上げていく。そこに、看護師が看護師らしく輝ける場所があると実感しています」。

高須の意見に深くうなずきつつ、内藤はその一方で急性期以降の支援には大きな課題があると言う。「急性期治療を終えた方が皆さん、自宅や施設にスムーズに戻る

わけではありません。特に医療依存度が高い場合、継続して専門的な看護が必要ですが、それを提供する地域での資源は限られています」。市民病院として、その部分を少しでも補強したい。訪問看護ステーションの開設も、当院のそんな強い使命感があるからだという。「当院には、認知症や摂食嚥下障害、がん看護、皮膚・排泄ケア、慢性呼吸器疾患などに精通した認定看護師がいます。そうしたスペシャリストや専門医の力を動員して、在宅療養で困っているご本人やご家族に手を差し伸べていけたらと考えています」。さらに、内藤たちは地域で在宅療養支援に携わる診療所や訪問看護師のサポートにも視野を広げる。「当院の訪問看護ステーションが率先して重症な方をお引き受けしたり、床ずれ予防など在宅での看護に必要な専門知識を提供することで、地域全体の在宅療養を底上げできたら理想的です。当院のステーションが病院と在宅療養の隙間を埋める拠点になれるように総力を結集して取り組んでいきます」（内藤）。

BACK STAGE

地域包括ケアシステムを 支援する市民病院の使命。

●要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるように、地域内で助け合う体制（地域包括ケアシステム）の構築が急がれている。そのなかで、患者の自宅を訪問し、必要なケアを提供する訪問看護師の役割は非常に大きい。

●西尾市民病院は市民生活を守る病院として、訪問看護の重要性を強く認識。急性期医療を軸とする病院があえて在宅領域に踏み出し、地域医療に貢献している。



療養支援 のおはなし

ケアについて
教えて!



テーマ

特定行為看護師(創傷管理)

創傷に対して、医師が作成した手順書に従い、壊死組織の除去、陰圧閉鎖療法を行います。

褥瘡(床ずれ)による創傷 管理に、2つのアプローチ。

創傷とは、外力により生じた皮膚や軟部組織^{やけど}の損傷を指します。火傷や擦り傷、皮膚の潰瘍などがあり、褥瘡(床ずれ)によって生じた創傷も含まれます。当院で、褥瘡の創傷管理に携わっているのが、特定行為看護師です。

特定行為看護師は、厚生労働省が定める「特定行為に係る看護師の研修制度」を修了し、医師の判断、また、医師が作成した手順書に従い診療の補助ができる看護師をいいます。

創傷管理関連において、特定行為看護師が行える特定行為は、褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去。そして、創傷に対する陰圧閉鎖療法の二つがあります。

院内の褥瘡回診チームと、 在宅スタッフとも協力。

褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去とは、いつも同じところに、一定以上の圧力が持続的に加わることで生じる、腐った組織を取り去ることです。この除去は大切な処置であり、治療への期間を短くすることができます。但し、リスクの高い方、重篤な症状の場合は、医師しか行うことはできません。

そして、創傷に対する陰圧閉鎖療法とは、創傷部分を専用の被覆材で覆い、小さな機械で外部から陰圧(外よりも気圧が低い状態)をかけ、浸出液を吸引する治療法です。病状にもよりますが、治療期間の短縮化を図ることができます。

特定行為看護師は、こうした診療補助を、院内では褥瘡回診チーム、在宅では地域の訪問看護師、ケアマネジャーとの連携のもと実施しています。



Message

私たちが支援します



特定行為看護師
皮膚・排泄ケア認定看護師
長谷部 純子

患者さんへのタイムリーなケアの提供を担っています。

多忙な医師を支えるとともに、患者さんへのケアがタイムリーに実践できるのが、特定行為看護師です。私自身は特定行為はもちろんですが、看護師本来の視点である患者さんの生活面、社会背景を見つめたケアを心がけています。そのためには、院内の褥瘡対策チームとの協力体制は重要であり、スタッフへの処置やケア方法の提案、指導にも力を入れています。また、在宅へは医師と一緒に訪問しますが、訪問看護師さんやケアマネジャーさんには、第三者的に特定行為のケア方法を評価していただく、また、在宅でのケアや予防についてのご相談をお受けするなど、地域全体への視野を持つ病院の看護師としての活動を心がけています。

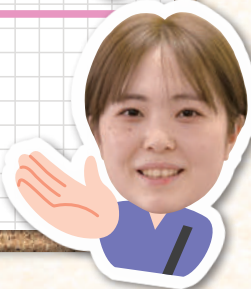
療養支援 の おはなし

テーマ

褥瘡回診チーム

外来、入院、そして往診まで、
早期発見・治療・治癒をめざし、
患者さんを支援しています。

病気を
治すだけじゃ
ありません。



褥瘡はさまざまな要因で発症。
重症化すると命を落とすことも。

褥瘡とは、一般名で床ずれと呼ばれている創傷のことです。皮膚と骨との間の組織に、圧やズレ、摩擦などが加わり周辺組織が壊れた状態をいいます。

発症するのは、ご本人が動けなくなる、例えば、寝たきりになる、急な発熱で動けなくなる、骨折で動けなくなるといったとき。また、栄養低下、糖尿病やステロイド剤を使用する病気など。さらには、皮膚の乾燥や不衛生、そして、介護力が乏しくなるなど、さまざまな要因が重なるケースがあります。

褥瘡は、初期の段階では皮膚が赤くなる程度ですが、進行すると重症化し、最悪の場合、感染症を併発して命を落とす危険性もあります。

医師をはじめ多職種協同で
褥瘡に立ち向かっています。

当院では、褥瘡回診チームを設けています。活動目的は、褥瘡の発生予防と早期治療・治癒です。チームは医師（形成外科）、薬剤師、管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師で構成され、入院患者さんのなかで、活動性が低下し安静状態が長く続いた方や、栄養状態の悪い方、麻痺などで知覚低下し褥瘡がある方を対象に週1回の回

診を通して、予防・治療を実施しています。そして、必要に応じて皮膚科医、他分野の認定看護師、NST（栄養サポートチーム）と連携を図るなど、適切な処置に努めています。

なお、皮膚・排泄ケア認定看護師は外来患者さんにもアプローチし、予防できるように生活や環境についてお話します。さらには、医師と、左頁で紹介した特定行為看護師と褥瘡往診を行うなど、地域の褥瘡対策にも力を注いでいます。



Message

私たちが支援します



皮膚・排泄ケア認定看護師
杉浦 裕美

褥瘡への知識、対策の向上に挑戦。

褥瘡回診チームは、病棟スタッフへ予防・ケア方法の提案、指導を行うのはもちろんですが、褥瘡の治療をした患者さんの退院後の行き先（自宅・施設など）、治療の場所などによっては地域との連携も進めるなど、当院を退院したら終わりではなく、褥瘡往診を含め、その後の経過もフォローしています。また地域の病院や施設、訪問看護師事業所の皆さまに褥瘡の勉強会を開催し、地域全体の知識向上を図る活動もしています。

褥瘡はお尻だけでなく、ひじ、かかと、頭、耳、肩、背中などにも発生します。決して軽く考えず、私たちのチームにご相談ください。



地域医療を支える



新しい力

チカラ

対談企画

初期臨床研修医

看護師



私たちの
仲間を
ご紹介。

責任の重さは、イコール、充実感とやりがい。



臨床研修1年目の桑原先生、そして、入職3年目の倉内看護師。まずは近況をお聞かせください。

桑原 僕は、当たり前のことですが、医師という仕事の責任の重さを、ひしひしと感じる毎日を送っています。倉内さんは3年目ですが、そのあたりはどうですか？

倉内 同じですね。責任の重さ、仕事量の多さとかは、本当に大変だなと思っています。でも、患者さんが退院されたり、病棟で笑顔をお見せになったりすると、とてもうれしい気持ちになって、頑張らなければと改めて思ったりしますね。

桑原 なるほど。責任の重さ、イコール、充実感でもありますからね。その意味でいうと、僕は救急外来で搬送された患者さんを診たとき、例えば心筋梗塞といった重篤な疾患を見落とすことなくきちんと見つけられたときがそうですね。その後の治療を僕はまだ担えませんが、まずは責任を果たせたとホッとしますし、強くやりがいを感じます。

倉内 上の先生の診断・治療となって、生命を繋ぐことができるのですから、とっても大きな充実感ですね！



将来への思いをお教えてください。

桑原 倉内さんは、もう後輩指導もされているのですよね？

倉内 はい。経験が少ない技術の場合は、まずは自分がしっかり身につけてくなくてはと思いますね。

桑原 なるほど。僕は先輩医師に教わりながらできるようになり、その繰り返しが一つの道筋になっているんですね。もちろん、先輩医師には確実にエビデンスとか、知識の積み重ねがあります。僕も次年度には後輩ができるわけですから、エビデンス、知識を含め、しっかり指導できるようにならないと思っています。将来はどんな看護師をめざしていますか？

倉内 広い視野を持つ看護師が理想です。それと、入院患者さんから何でも気軽に相談してもらえる看護師になりたい。

桑原 僕は、患者さんというより、市民の皆さんに安心して生活を営んでもらえるよう、医療の面からサポートしていければと思っています。まだまだ先の姿です。そのためにも、今は目の前の学びをしっかりと重ねたいですね。



さまざまな診療科をしっかりと経験し、1年目のうちには専門を決めたいですね。



毎日見るなかでしか見つけられない変化に、気づける看護師になりたいですね。

初期臨床研修医(1年目)

桑原大典(くわばら だいすけ)

福島県出身。病院見学で、上の先生との距離の近さがとても魅力的でした。

看護師(3年目)

倉内優奈(くらうち ゆうな)

愛知県出身。保育園児のときから憧れた看護師になり今は無我夢中です。

こんな言葉知っていますか？ 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 栄養管理の重要性

今回は
(栄養管理の重要性)に
ついて学びましょう



普段の健康管理はもちろん、 病気やけがの進行防止、治療、症状悪化 の防止に、「栄養管理」は重要です。

栄養とは、食物を摂取することにより栄養素を体に取り込み、体を作る、活力を保ち続けるなど、生命を維持する一連の活動を指します。栄養状態の悪い方が病気になったりけがをすると、治療に時間がかかる、術後の合併症を引き起こすリスクが高くなるなど、治療自体にも大きな影響を及ぼします。

こうした背景をもとに、医療機関では、栄養素の働きと身体機能、病気、治療との関係を重要視するようになりました。言い換えれば「栄養管理」という視点を取り込み、健康・栄養状態をより良い状態に改善し、病気の進行防止、治療、症状悪化の防止を図っていくというものです。具体的には、急性期病院のなかには、入院患者の栄養状態を評価し、主治医への適切な提言・選択・実施を行うNST(栄養サポートチーム:医師をはじめ多職種で構成)の設置、入院・外来患者さんへの栄養指導、住民向けの各種健康教室開催、さらには、地域と連携し高齢者への栄養面での支援など、多様な活動を行う病院があります。



西尾市民病院では

栄養管理は、ご本人が主体的になっていただくことが一番大切。

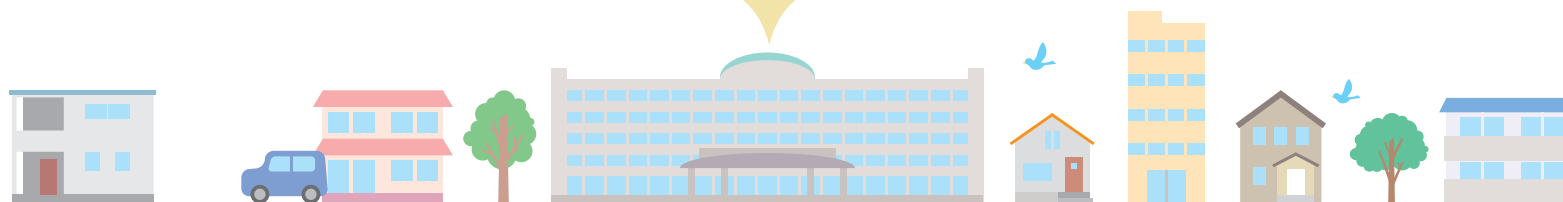
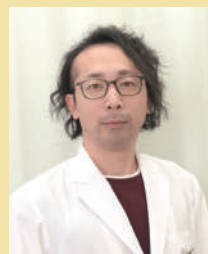
病気になったり、けがをすると、回復するために必要な栄養素の種類、量が変わる場合があります。患者さんのなかには、それまでの食事により栄養過多の方、高齢者の場合は低栄養の方などがいらっしゃるため、問題となる部分を改善し、栄養状態を整えていきます。

その際には、食べられない分は栄養剤を追加する、嚥下障害の方には調理法を変えるなど、患者さんごとに適したアプローチを行っています。大切なのは、患者さんが理解・納得し、主体的になっていただくこと。当院ではNST等のチーム活動、入院・外来患者さんへの栄養指導、糖尿病教室開催、在宅療養する高齢者支援のための地域ケア会議参加などを行っています。いずれにお

いても、患者さんと相談し、なるべく実施できる範囲内での提案をして、継続していただくことを大切にしています。

なお、当院の栄養室では、管理栄養士をお持ちでない地域の診療所さんにも連携を呼びかけています。当院にご紹介いただき、診察を受けていただければ、その後に栄養相談に乗ることが可能です。診療所の先生の大変な患者さんの診療に、私たち管理栄養士を、ぜひともご活用いただければうれしく思います。

栄養室 副主任
石田繁範(管理栄養士)



看護学生や看護師の方。病院見学・インターンシップに参加しませんか？

西尾市民病院では、当院での働き方や雰囲気をより知っていただくために、病院見学や看護学生向けのインターンシップを開催しています。病院見学については毎月1回開催するほか、ご都合に応じて個別の見学も実施しています。ご興味のある方は、ぜひ、病院見学やインターンシップをご活用ください。

病院見学

【対象者】 看護学生の方、当院で看護師として働きたい方(ブランクのある方、転職を検討されている方も歓迎)

インターンシップ

【対象者】 看護大学、看護短期大学、看護専門学校に在学中の学生の方

詳しくはこちらをご覧ください



西尾市民病院の看護を
体感してみよう！



お申し込みはこちらから。
お気軽にご連絡ください！

西尾市民病院 看護部
電話:0563-56-3171 / FAX:0563-56-8966
E-mail:y_ogawa@hospital.city.nishio.aichi.jp

地域医療デジタル掲示板 広告募集

企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

西尾市民病院、市役所設置の大型モニターで
市民の皆さんに情報をお届けできます。

※掲載事項および内容には、審査がございます。

お問い合わせ・
お申し込みは
こちらから

合同会社プロジェクトリンク事務局
info@project-linked.com



看護師募集中！

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先 西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報WEBマガジン



こちらから



西尾市民病院からの最新TOPICS
や検査・治療・ケアに関する情報などをお届けします。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウント
を開設しました。QRコードから「友だち追加」を
お願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171 (代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



1 月号 2024 No.16

発行責任者／院長 棚宜田 政隆

発行／西尾市民病院

記事提供／中日新聞広告局

編集協力／プロジェクトリンク事務局

発行日／2024年1月26日